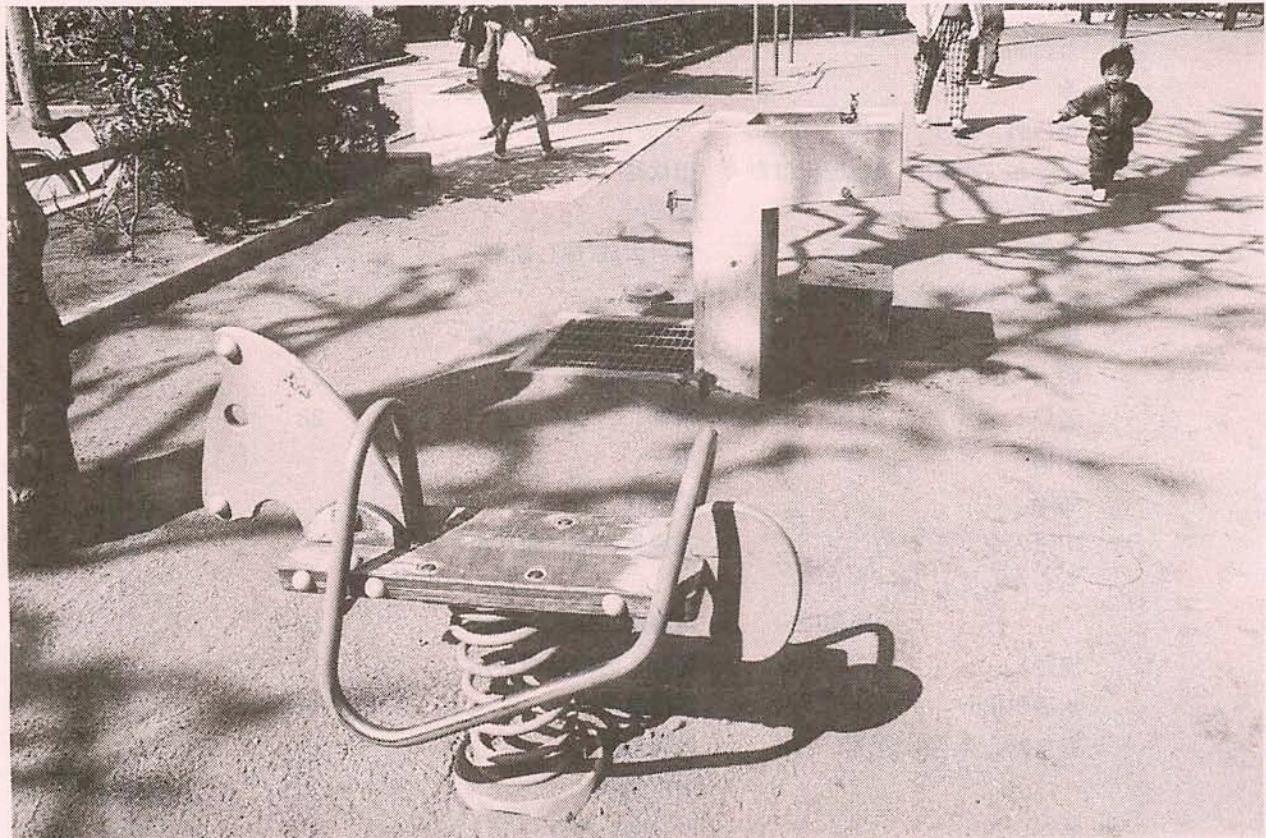


路上文芸総合雑誌『露（Rojuku）宿』

2002年11月1日発行

# 露宿

第21号  
Rojuku



定価500円

## 露宿

### 目次

表紙写真	迫川尚子	
文中写真	岡田知子	
無題	五林修	2
秋景挽歌	富士森和行	3
朝太郎の箱船	鈴木克彦(挿し絵も)	5
やさぐれ無宿	弓削鴻介	12
風はきままに	入矢剛弓	
前史「コロン500年」		
えの反語 他	秋戸空	13
五行詩	近松雅之	16
画	悔吾	17
日、日、一步、一步		
そして時間は流れ歴史は動く	田代猛	19
恐山 他	清翠	20
新編・マンモス交番	望月大成(挿し絵も)	21
にぎりもやい定例集会から	いさむ	25
絶望の地 他	名無しの権兵衛さん	26
明治・天王（日王）は…	後冷泉基嗣	27
老い	宗春	28
川柳	小一	
無題	橋安純	
山谷のタケちゃん	名無しの権兵衛さん	
もしかして、パートII		
～同棲中～	只野醉払(挿し絵も)	29
無題	名無しの権兵衛さん	32
水道町より	高橋美香	33
東京路上ふらり散歩	笠井和明	34
	岡田知子	
あかい花	はり師いが丸	37
おきなわ旅日記～イクコさん～	恩田美代子	38
編集後記		

# 無題

## 五林修



都市。

さしづめ、日本と云ふ国では、首府東京でしょうか。  
そこでは、不完全な就労があり、次に公衆の衛生が悪化し、そして犯罪が絶えません。

失業、病氣、悪、これらが路上で生きている。

失業者が、路上で生きている。病者が、路上で生きている。犯罪者も、同様です。

私は、他人事を言つてはいません。

昨年、十月四日、朝の九時十五分ごろでした。台東区、日本堤二之二之十四にある、都、城北センター前庭に於て、ゴミ袋に火を付けた事で私は、タイホされました。

罪名、構築物等以外之放火

威力業務妨

住居不法侵入

当日の朝は、ゆるやかな風が流れっていました。

空は、青く、何の不快感もない朝でした。

センター前で、何が起きたのか？

一年がすぎた今日、私は眞実を書きます。

# —秋景挽歌—廿拾四首

富士森和行

相模灘 いまも漁火もゆらむかこの磯に立ちたる幻を追ふ

鰯干す町は残暑の熾なり思ひたち来る真鶴港に

三つ石の断崖の磯下り行く沖の紺碧うな原遙るか

(9/3 真鶴岬先尖端にて)

岬の秋まだ早き潮の色蒼く碎くる半島ひとり旅せむ

漁港の町を好みてわが足の老ひ果てぬ間を旅すらむ秋の季得て

吾が身体のいすくに残る精力の衰へざらむ行為風の秋

わかゝりし父の口誦みし流行歌「今宵名残りの三日月も消えて淋しき相模灘」

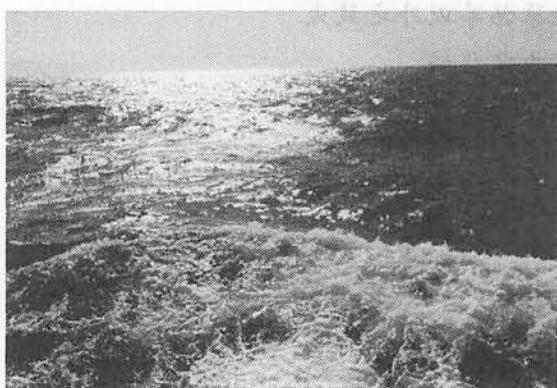
(大磯心中の歌あり)

真鶴の岬より翔ぶ鳶たかく低く漁港の町と別る、

(9/3 真鶴半島一周の旅にて)

粉飾と言ふ語かなしも且ては脂粉追放と言ふ語もありし

ひたぶるに老ひの衰ふ日々ながら男の生理ときにたゞならぬ



おもむろに回復すらむ体調のしるし微かに勃起する朝

あさなきな風に眼覚めてひとゝきの吾が若き日を股間に握る

夕されば街は寂しく運勢の灯を点しゆく秋は殊更

命ある限りと思ふ生きもの、性はいかなる泉に潜む

沛然とひと日降る雨は秋連れて老ひの籠れる窓ぬらしけり

滔々と雨脚は灯に急りつゝ更け行く秋の夜の長さよ

秋雷の憤り鋭くわが窓の夜更け是も非も問わず轟く

いかずちの怒れる音の遠のくを路上に等しわれの臥床に  
窓硝子棘し来る稻妻の光充つ今年も既に秋たちにけり

物言わずわれの咎をば責めくらむこの雷鳴の凄まじきまで

夏の終り告げる雷雨は老ひの胸中見透しゆかむこの過酷さよ

「敬老の日」とは何いま日本の民族の想ひ試めされるつ、

した、かに雨に打れし窓の花わが枕辺の灯に見つゝ寝む

なんとなく原稿用紙見れば買ひ詩索なけれど机上に積めり

(二〇〇二・九・七 不肖なる誕生日にて)



# 朝太郎の箱船

## 三、石頭寺本頑児の巻

鈴木克彦作  
(山下金七)



### 三、むごい石頭狩りの章

こうした互いの猛々しくトゲトゲしい  
情況を憂い 竹林の七愚みたいな老  
人 詩をつくり歎じて曰く

「善と悪から悪を選んで船に乗せ  
悪だけかと思つていたら

何んと 悪の中にも善がいた  
その善をそつとつまみ出し

ほつと安心して いたら  
なくなつたはずの善がもう芽生えてる

まさに善は雑草のごと  
いくら抜いても踏んづけ殺してみても

どこからともなく湧いてくる  
疾走無辺方イーゼンシツリヨウメツ

(一度コラシメテ追い払つても また  
力をもりかえしてやつてくる)

ああこのイマワシイ

善とやらはどうにかならないか  
いやむしろ 悪をやればやるほどに

善は大きくなつてやつてくる

こいつはいつも忍び込んできて  
悪人の心を悲しませ絶望させる

ああこの世の善から脱け出すためにや  
地獄こそが最後の楽園

トリケラトプスあいさん  
と銃め金七 佐川  
六千五百年前絶滅し  
ていなかつた希百万等

だがそんなにうまくゆくものか 千手  
ガイ愚人を少數の力で圧えられるも  
のか コン棒も捕え網もない 地域  
住民少しも協力しない  
寄つてタカツテ狂人イジメル 婆婆の  
キチガイ狩りとは違うのだ  
トラエル方は自分達こそキチガイで  
捕らえられる者が正常人ではないか  
と錯覚してしまう  
確かに人をフンジバリ 罪を被せる口  
には力ナワないが それでも狂人が  
が目の前でやつつけられるのを見れば  
自分がヤラしたように役人憎  
しの本性は燃え上がり 休火山も火  
を吹き連山呼応する  
狂人も変人も予知能力と被害者意識は  
鋭いものいつもバラバラな仲間が  
目的と方向性を更に見つけ出す  
長いイビリイビラレ合戦で疲れている  
だろうが仲間達敵も苦しいはずだ  
欲しがりません勝つまでは行け同  
胞よ勝利は近い 立て万国の痴呆狂  
戦いは今から(注)  
障子に耳あり壁に目ありとはよく言つ  
た スパイが逆にスパイされ ダマ  
スやつが騙されるハメ 人を見抜き  
トボケテ 自分からアザムク術にル  
ンペソ達は長ている

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

ウラミ骨ヅイの元官権共は力ギつけられて形勢は逆転し 石頭寺の一揆軍押されてゆく  
船内戦の内ゲバで 意外にモロクも石頭寺一揆軍は追いつめられる  
もう 国を頼つての空イバリ 正義の助けは望めない 法律道德一般通念あるのは船の正氣狩り ゾンビの生人間喰らいみたいなやつらが官僚軍をトラマエル  
一揆軍もさきの痴呆連とおんなじに手前らが負けてくると国が亡びる時には国に忠実だった役人や 人を取締る警サツ官がイノ一番に悪いことを始めるという具体に責任ノガレに言い訳やら味方の裏切り密告をして イエスの弟子達全員のようすに主を見限つて ユルシを乞おうと やれ打つな役人が手をスル足をスル（注）  
白人民族優位のKKK団員 ただただフルエテいる中で インド最高僧侶階級のブラマン 差別絶対否定をタタエテ 船の丸窓から雨の海中へザンブリと飛び込む  
試の分からぬイビリイビラレの大嵐も加わって 元官権は六・七人のバカ

共にオソイカラレ押しつけられコチョコチョくすぐられ笑わされチンボをひっぱり出されてシゴカルル これじやもう警察官だかワイセツ漢だか分からねえ  
船中ムゴイ石頭刈りが近づいた どんなに残忍非道凶悪な顔を隠したってアホーの目と鼻と肌はごまかされぬ長い歴史の中を顔を潰され追いつめられて 職場も親族関係まで汚染され喧伝され写真を回され笑われて将来の夢・希望どころか現生活さえ踏みにじられた人々だ  
右翼にヤクザ者無宿人 パン助ポン引き閣屋にテキ屋 左翼にルンペン金貸し 異常生活のマンガ家の不満も加わって怒りの応酬  
さざれ石頭が巖となりてコケなどムサしてたまるか（注）とどこへ逃げても隠れても 石頭連 猿も木から落ちるように 河童の川流れの如くに ツカマエられてゆく 石頭を追うヤクザ者  
「猫の目のようすに変る与党の金魚クン ケイサツや獄典 裁判官を追え  
追われる者 裁かれるアウトローの苦しみを十分に味わせて 犬に食らわす

ブン屋の兄ちゃんも同じこと 我々の悪を大々的に宣伝して世論を煽り 宗教・教育者まで味方につけ弾劾しやがった  
憎んで足りぬ首斬役人ジン事課長もみな目隠しさせて船縁歩かせて海上叩き込め 所詮始めから船に乗れなかつた連中「誰もみな好きで殺つたんじやねえ  
楽しくて親不幸したんじやねえ 犯罪恋愛交通事故 どこで巡り合うか分からねえ  
マジメに生きて悪いことしなかつたやつらは 正にウンが良かつただけのこと  
あるいは悪業したくてもできなかつた臆病者 チヤンスがなかつただけのこと  
そんな己がクヤシクテみじめで 映画や小説でできねえことを満足させてたが  
自分が悪者にヤラレリや猛烈と己の本心裏切つて警察と共に悪に歯向う卑怯者  
そんなやつらに天下渡してなるもの

か」

# ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

いよいよ④部落の幹部や朝太郎と古くから共にあつた人々が一揆鎮圧に本腰入れる特定の城や領土を持たぬ少数民族の一揆軍 大勢の力の前に戦線は破られ孤立してゆく世界中六十億の人々が尊い命を失なつてわずかに残った二千五百の人々がやつと雨と嵐を戦いぬいて生きヌイテここまでやつてきたのにああ無情人とはこんなに悪善なのか 善悪なんか過去の思い出そんなに根深いものなのなか 石頭連の決起に婆婆で虐げられていた多くの者が怒り憎み ミリミリカんで吠えたてて仕返しをして暗い己の劣等を取り戻そうとしてか 元官種に熱狂していどみかかるのだ これではムチャクチヤな西洋中世の魔女狩りと同じじゃないか 逆差別じやないか 国家に忠実で立派なオマワリさんら公ム員が今は魔女あれしちゃいかんこれしちゃナランのギューギュー詰

めの婆娑世界のシクミや圧迫が今うちひしがれてた者の裡にハツキリ甦える人は常に公平でありたい自由平等でありたいと願うものだということか自分こそが正しいのだと思つてゐるということなのか正義の味方の月光仮面やスーパーマン達が今の世から見れば鬼畜生犬も食わねえ豚も吐き出す大異物という訳でもなかろうがやつつけられた悪者にや冗談じやねえ 決してユルさんぞといふことなのか世界を狂わし人々を不安に追いつめたモーレツ社員 先端技術者 他社をケタオシ世界侵略計った企業・発案者 直接悪人苦しめた石頭のゴロツキ暴力ケイカソ朝夕口さんよ何んでこんな国の権力で猛威をフルッタ者達を乗船させたのかこうした者の支配からまぬがれた者達の国作り コミューン 大平天国 悪人狂人愚人らの五族共存のために④部落はあつたはず

「命みじかし チンポみじかし恋せよ 中年 人は愛によつて生きるもの四十日もうち続く雨と嵐の中を人を慈しみ 自らを戒め 忍びて耐えよ タエル

「命みじかし チンポみじかし恋せよ 中年 人は愛によつて生きるもの四十日もうち続く雨と嵐の中を人を慈しみ 自らを戒め 忍びて耐えよ タエル

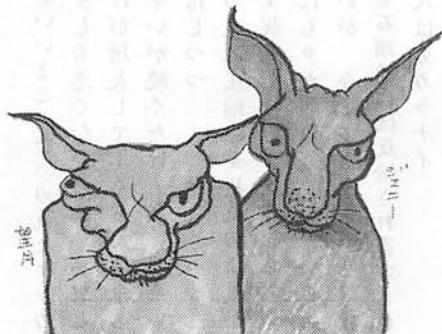
笑えば天国 怒れば地獄 笑えば最高 憤れば最低 笑つて汝の敵を愛せ

人生は幻化にして終りは正に空無に帰すべしなのに――

石頭連本頑児の一揆軍 次々と倒され捕つて縛られ歩かされ一室に押し込められる

さてさて朝太郎船 これから一体どうなつてゆくことやらゆかぬやら 風はわずかにブヨヨオーンビヨオーンと不気味な音を立てて いふ船底の小山羊まで不快そうに風の声を

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO



聞いている（注）いや多くの動物

達にも鬱病や糖尿病 肝炎 ノイロ

一ぜが広まっている

大きいなる海の上に タヨリもなく漂よ  
い狂う船 官僚一揆の次にくるのは  
何？ 狂つた両氏双方の群集をタバ  
ネようと オカシナ宗教などハヤラ  
なけりやいいのだが

船内放送ヒビクなり

「本日正午すぎ 石頭寺本頑児官僚一  
揆軍は鎮圧されました 繰り返し  
ます 本日正午すぎをもって 石  
頭寺本頑児官僚一揆軍は鎮圧され  
ました 降伏する者ころさず 兵  
隊はスミヤカニ原隊復帰セヨ」

四 クレージー裁判の章

さんざんリンチを受けた善悪人三百余

名 階下の元汚物室から引きずり出  
され 大部屋に座らせられて裁判受  
けることとなる

何しろきょうは朝から裁判準備にもた  
ついている 相方朝飯ナシで働いた  
り 待たされたり

待ちながら 苦痛に耐えカネタ石頭連  
意外にも口々に朝太郎の御名を呼ぶ  
朝太郎に助けを求める——朝太郎過労

でノビているにしてもだ 彼ら反旗  
をヒルガエシタではナイカ  
④の有力連中もドエライ騒ぎつづきで

クタクタにイカレちまつて 一体誰がどうやつて彼  
等を裁くのか

皮肉にもこうした善悪人の石頭 実は  
このわたしには何が善で何が悪で  
善悪人と悪善人の区別すら分からな  
いのだが

でもどうやら石頭連が善悪人で 痴狂  
人が悪善人らしい  
がそんな役人や右翼や左翼 ヤクザに  
宗教家が一揆起したこと事體 何ん

か別のものがあるよう思える つ

まり朝太郎憎し 暴れて転覆させる

者はひと握り

大半が民主的なネゴーシエイション  
船生活の改善改良 権利意見を尊重  
して将来のことを考えての要求交渉  
だつたのに 何しろバカが多いから

時が悪かつたから邪魔されて 暴力  
ザタになつた

また愚力ナ語り部にはそう見えたが  
この戦いが終つて總ての争いに終止  
符打たれた

そのあとにきたのがツカの間の和平  
人々休んだり笑つたりチリヨウした  
りケロリとしたりしている

なれば④のカソブー一揆アバレロの人  
達を全員無罪にして釈放スレバいい  
のだが ヤツラとは確執がある  
前々からユルセない者 そこで弁の  
つと夕太郎に痴狂に負けた彼らをも  
つと痛めつけ 立ち上がりれない打撃  
を与えると 痴狂優位の精神を焚き  
つけた」「——イジになつたよ日蓮

法華か 曹洞か イジとスジに固執して  
うにも邪魔な石頭連を压えておこう  
と④連中夕太郎にケシカケタ

か別のものがあるよう思える つ  
まり朝太郎憎し 暴れて転覆させる  
者はひと握り

# ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

止めたがいいよこんなバカ氣たケンカ  
互が少しも悪くないのに妄想と疑  
惑だけが增長してふくらんで果しも  
ない争いが続くだけ相手が悪い憎  
いと信じつつ

車走行の吸入圧縮爆発排気の排気がナ  
サレヌ状態だけのケンカなら  
語り部にも夕太郎の氣持が分からんで  
もないが今までも声を限りに説法  
しても石頭連には反撥され否定され  
痴狂人は分カラナイ

だが朝太郎は両方に好かれ自分は嫌  
ワレ拒否されるあらゆる人を愛す  
る根本精神は同じなのと同じれんま  
にあごヒゲをジリジリ焼かれた夕太郎  
かつてヒンミン窟でも彼らを救おうと  
努力したのに痛めつけられ追い払わ  
れた

④のカンブにハメラレタせいもあるが  
夕太郎心情はいつも変わらぬ優しさと愛がある人に教えすぎ同情し  
すぎて食われてしまふ

けれども今朝太郎の片腕としてクタ  
バッタ朝太郎の代りに反乱起した囚  
人をバッシなければならぬ立場  
スピードイゴンザレスのように素早  
く様変りしてアクマに代りて善を討  
たねばならん

「我ら狂人族に勝る者などこの世にい  
ない

失樂園から力インの末裔に至るまで  
綿々とつづいた氣高き強き惡の正統派  
歴史は常に狂人によって創られてきた  
常に偉人は亞流末端から生れいで  
その惡を遺憾なく繼承し踏襲してきた  
大衆は常に我々の力や思想を受け継  
いで

常識哲理新しい考え方まで教えられ  
我々の犠牲努力の上に人らしくはな  
つた

今回の④発電所から朝太郎船に至る  
まで

新しい多くの人に望まれ作られた社会  
そんなお前らが大恩忘れて覆えすとは  
しかも元のありふれた世に戻そとは  
まず首謀者のひとりAを立たせタタミ  
かける

「人類滅亡の過渡期にあっては様々の  
訳の分からぬ事態が派生する  
けれどもアクマに教わったのが我々  
痴狂人世の中ひっくり返り我  
ら世の覇者

なのに首謀者A元警察部長ひつ  
くり返った世界をまた元に戻そ  
と手練手管を使い我々同胞を  
倒し害虫とののしり頭を叩き割  
り金玉蹴り上げ暴力拷問電  
気ショックに逆さずりキチガイ  
掃討を行つた

あまりにもお上を恐れぬ大胆不敵な  
画策

お前らの情弱な暴力に敢然と立ち向  
つた

氣高い痴人精神による裁きを覺悟せよ  
それでは官僚一揆首謀者の彈劾だ

死者をも笞打つ刑受けるがよい  
人の

確かに朝太郎精神を受けツイデいるよ  
うだが少し違うそれは夕太郎の腹  
の底からの思いではないそこらに  
ズレがある

まず首謀者のひとりAを立たせタタミ  
かける

「人間滅亡の過渡期にあっては様々の  
訳の分からぬ事態が派生する

けれどもアクマに教わったのが我々  
痴狂人世の中ひっくり返り我  
ら世の覇者

なのに首謀者A元警察部長ひつ  
くり返った世界をまた元に戻そ  
と手練手管を使い我々同胞を  
倒し害虫とののしり頭を叩き割  
り金玉蹴り上げ暴力拷問電  
気ショックに逆さずりキチガイ  
掃討を行つた

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

我々痴狂人建国に不必要な害虫 フ

オン分子はお前だ 死刑！」

「違う！ そんなムゴイことなどして  
いない」

だが A は地下の牢獄へと連れて行かれ

次は B

「右翼のバリバリ猛者 よくも我々の  
仲間を騙し利用し混乱させ分裂さ  
せたな

我々社会をブッ潰し 純日本皇國な  
どというものまで持ち出して戦つ

てくれたな

外人は人と思わず 狂人悪人の抹殺  
を計り 小さな大義名分の部族主

を背に 殺戮を行い そこに何  
が残るのだ

恩も忘れ義理もなく この世の秩序  
を乱し 誰がついてゆくと思うの

だ 死刑！」

「嘘だ！ 殺戮などしていい！」「C！ 女看守 ガリガリ頭で自分の

主義は絶対正しく 外は何も認め  
ん考えられんと言う女 痴人を虐  
待した罪

お前など更生しようなど夢にも思わ  
ん 標準化石の石頭 硬度七の鋼  
鉄でもわれぬ価値のない金剛石  
生きる力チがない

さて こっちへ来い！ アダチガ原

の食便ボーズ お布施とタカリ

金取り生臭の宗教代表 飢餓道に

墜ちてもつと食いたいと 一揆り

一揆一買つて出た 非暴力主義宗

派の暴力漢

ただ食うだけのケダモノやくざ 朝

昼夜と食うことしか考えていない

そのためには騙しも脅しも人をも

殺す

そんな者共引きつれて船内ひつかき  
回し なにかいい食い物でも見つ  
けたか

グルグルとグル目を回し 痴性も狂  
性もなく 手前のアゴさえ動いて

いやあ幸の輩腹ドモ 死刑！」

マルキの幹部ふたりの白人引き出して  
くる 鎮圧されてからどこかに隠れ  
ていた様子

「裁判長 こ奴らはふざけた者にござ  
います 白人であることを鼻にか

け 東洋人をアゴで使い イエロ  
ーバスターと賤めめた元KKK団

の者を捕えました

こ奴めにかかるて殺された黒人 イ  
ンデアン 中国人知れず かつ

て野蛮国であつた白豚が 白人こ

そ偉大なりと一揆に加わりその曙

には 東洋人を裏切り白人支配の

政権取ろうとした者 しかも野獸

性を發揮して多くの痴狂人を打の  
めす

「何を！ 猿共は黙れ！ 白人は偉大  
なり」

「お前らイエロージャップは働き小屋  
のウサギでたくさんだ 我らかっ

て一度も戦いで負けたことのない

大英帝国の女騎士

そんなワラワに汚ないカバがヤラセ  
口と迫つたから暴れだしたのだ

先からつま先に至るまで 全身マ

ッ黒に入墨入れて生涯イカシてや  
るがよい」

元官僚が引きたてられてくる タ太郎

罪状もキソ状も見ず聞かず判決下し

てしまう

「分かつておるよ石頭というより鉄頭  
人というより犬畜生 お前らの一

揆が成功しなかつたのは 優れた

狂人や幸な痴人に好かれていなか  
つたからだ

お前らに必要なのはアクマ様と朝太

郎の教え こうした長に奉仕服従

すればよい

お前らこそ迷つた醜い羊の子 土台

# ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

ものごとの眞実など分かる輩ではない。ならば痴狂人に使える石頭となれ必ず出番はある。世の中変ったのだ。バカのひとつ覚えのようにアカだから突っ込みだから盗みだからと悪いと信じて行動するな。ただ悲しむらくはワタシは正しい絶対だと思うな考えるな人である以上に大あれ行動するより慣れよ。次!

次にきたのが平均論者サイズ狂。知能指数に身長体重チンポのサイズ学狂う。

平均以上つまり自分より上の者には尊敬羨望大嫉妬。ウソをついてまで自分のサイズをゴマカシテ取り入るが自分よりサイズの足らん者はミッソクソだから自分より下の者をナキ者にしようなどと妙な考えからリーダー格とはなった。

—タ太郎サイ判長の席からとび下りて自づから刑罰下す。太いステッキでその者死ぬほどブチのめす。お前らより劣った者こそ師と知れ父と知れそれが本当のサイズ狂だと叫びつづこのヤロは英國人で国内の変質

が犯罪者達の家に押しかけて彼らを侮辱し石をぶつけ家に火つけましたのです。

我々としてはこんな者は絶対許せない。しかもものうのうと我らの船に乗り痴狂人掃討にまで参加したというフトドキ者

「この教戒師は刑務所へ説教に行つたまではいいが、その器でない者を悪人達は受け入れぬ信用しないしアテにもしない

さんざんイビラレ笑われた教戒師あっちこっちに出向いてヤツラは人じやない。生まれつきの大悪人更生心も懺悔心も何もない奸倭邪悪な狂い人

あるのは凶暴性とねじれよじれた醜い心。こうした者には局刑しかなく子孫に遺伝するから去勢しろ。そうしなくては明るい社会はない」と說いた者

「まずはお聞き下さいこのバカ女。自分の宗教にコリ固まつたのはいいが、自分の亭主に尽したあとにこう言つた

どうせあなたは死んで地獄に行く方



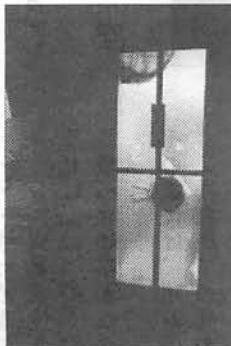
(注)は、引用、書き替えたもので、必  
要があれば(著作権などの問題)、これを  
正式に届ける用意があります。

だもの。せめて生きている間はわ  
たしが尽すのです。わたしは天国  
へ行けるのですからと。そして来  
た所が地獄船。ダンナは彼女を乗  
せてわたし共に頼んだあと、自分  
が乗れる所に他の人を乗せて上げ  
て下さいと。泥水に呑まれていっ  
たのです!

## やさぐれ無宿

弓削鴻介

(一)  
暗い路地裏、彷徨い歩く、  
俺はやさぐれ、無宿者、  
甘い夢など、今更ないが、  
せめて生きたや、人並みに、  
ああ、風に晒され、風に晒され、  
雨に泣き、  
塘搜して、叱られて。



(一)  
俺はやさぐれ、  
甘い夢など、今更ないが、  
せめて生きたや、人並みに、  
ああ、風に晒され、風に晒され、  
雨に泣き、  
塘搜して、叱られて。

(三)  
俺はやさぐれ、拗ねては生きる、  
明日の命は、風まかせ、  
何を今更嘆くじやないが、  
涙滲むよ、  
ああ、酒と煙草と、酒と煙と、  
流行歌、  
夜の巷の、声哀し。

(一)  
風は気ままに、吹いている、  
月が昇れば、日は沈すむ、  
人の運命も、見え隠れ、  
名もなく貧しく、美しく、  
清き心の、童歌

鬼さんこちら、手の鳴る方へ、  
月も雲間に、隠ん坊、  
もういいかあーい、まあーだだよ、  
枯れた芒の、ああーかげを踏む。



## 風は気ままに

(二)  
街の灯が、仄かにゆれる、  
夜の盛り場、裏通り、  
どこか似ている、暖簾のあの娘、  
つくる笑顔が、意地らしい、  
ああ、花は山茶花、花は山茶花、  
冬の花、  
金が物言う、この渡世。

(二)  
枯れた花にも、夢がある、  
明日を夢見る、夢がある、  
時の流れに、身を任せ、  
悲しい時には、涙して、  
熱き心で、蔽睨み、  
鬼さんこちら、手の鳴る方へ、  
月も雲間に、隠ん坊、

(三)  
二人三脚、手を繫ぎ、  
三歩進んで、二歩さがる、  
渡る世間に、鬼はなし、  
慌てず騒がず、無理はせず、  
強き心に、福きたる、  
もういいかあーい、もういいよ、  
待てば海路の、ああー日和あり。

入矢剛弓

## 〈前史〉「コロン500年」

えの反語（エトノシデオ）

秋戸 空



そして《大量殺戮可能な軍隊》に・

・・・・・喰つめ者のヨーロッパは、新

世界を漫食し続けたのでした。

それは《神》の『御名』を持つて・・・

統べての事がなされたのです。

その後には、踏み爛じられた、野蛮人、

（異教徒）の屍の山が・・・

累々と果てしなく・・・あちら・・・こ

ちらに築かれました。

この光景を視察した《神》||《聖職者》

は、マルス、兵隊、鍊金術師

これらの者たちの《榮光》をたたえて

大変満足そうに・・・

領かれました・・・

こうして、野蛮人、・・・は、「この世

界」からは居なくなり

人々を統べからく・・・偉大な《神》||

《聖職者》と・鍊金術

《karencv》の従者になるよう

・・・仕付けたのです。・・・（改宗し

ない異教徒）の野蛮人は、

殺さなくてはならないのです。・・・

一人たりとも

生かしておいてはなりません。

入れたのです。その地に白人（人間種）の世界がエル・

ド・ラードを目指して

（神）と・・・鍊金術（karencv）に栄光

あれ・と祈り

するための未知（道）なのです。これが我が（我が）

（偉大）な（神）聖職者の（御意志）、

なのです。・・・（神）よ・・・

（karencv）よ、我がマルス（軍神）

と軍隊に《劍》と《聖殺》とに・・・

祝福をお与えください

アーメン・・・と・

（神）聖職者は最後に皆に向かってこう云われました。

（ううん・・・まだ・・・物たりん）

白人種（征服者は、自分達の（神）（鍊金術）・・・以外の“かみ”を持つて

暮らしていた人々（先住民）を、野蛮人、

と称して・・・諫め・・・虐げ・・・

殺戮しその物たちを・・・征服

したのです。

いつたい・・・どれほどの「屍者の山」

を築き上げたのでしよう・・・・・

エトノシデオ（民族絶滅）・・・・・の

500年

そして今も・・・まだ・・・・・あきも

せずに繰り返される制服・史

視えない・・・視えてこない・・・視よ

うともしない・・・

聞こえない・・・聞こえてこない・・・

聞こうともしない・・・

屍者たちの・・・嘆き・・・屍者たち

の・・・呻き・・・

・・・我が（神）（karencv）を創造？

「歴史」の裡（うち）で……地下深く  
埋め込まれてしまつた……  
屍者たち……自らを……現わすこと  
の出来ない……魂  
魂たちの嘆きすら……開こうとしない  
（征服者）……だが……今！

無垢・惜惨の想いが……沸々と沸き上  
がつて来て……  
今宵から……始まりだ！……さあ！……  
と……沸き上がる！

無窮の屍者たち、カル・ニ・パル。  
さあ一始まりだ！始めるんだ！！

制服者たちの肝の上で……胸の上  
で……ぶよぶよの脂ぎった……生  
白い（ちろい）皮膚蹴破るまで  
に……踊りつけよう・皮膚蹴破るまで  
に、踊りつけよう!! そうだ！ 賴  
りつけよう!!

征腹者の心臓……ケヤブル……ま  
で……踊りつけよう……さ  
あ・ふ・く・しゅう・の・あ・  
あ・あ・カ・ル・ニ・  
パ・ル・カ・ル・ニ・  
パ・

それでも（世界）は……虚実の明滅の  
裡（うち）に  
耽美で凄惨な時節は刻まれて……廢者  
(ししや)たちの嘆きは……  
それこそ聞き取れないほどの……叫

無限の歴史の流れの裡（うち）で……これ  
また有限の騒然とした歡樂の中で  
再び……二重……三重にと追い込ま  
れ民族は死を科せられて……  
巧妙な罠（わな）は……仕掛けられた  
のだ・500年という歴史の裡（うち）で  
びは……  
都市（樓閣）の幻想は……甘美な  
《光り（闇）の世界》に  
（karency）に彩られた〈世界〉は……  
魅惑？的な  
競争というライディオロギーを……民衆  
の中えと……投げ入れた  
……〈karency〉という幻想性を  
追いかけさせる・支配性  
この結果は民衆の悲劇あるいは……喜  
劇とでも云うのか……?  
支配者たちの……甘つたるい微笑  
みの裏（陰）に……  
食文化の反革命（マクドナルドのハンバ  
ーガー）とコカ・コーラ）……  
腹をすぐ満たせる……という幻想が・  
隠れた……毒牙は……見ることが出  
来ないほどに……  
享楽のカーテンは……分厚く……それほ  
ど強固……なのかな……?  
（karency）えの欲望に……毒された  
人間種（殺人者）どもが  
バッコするこの世界で……持たざる者

たち（貧民・貧者）たちは、  
幾許もない……金（貨幣）に群がつ  
て……引き裂きあう  
自分たちの……生命基盤すら……引き抜  
いてしまう……  
羨（わすか）ばかりの……〈karency〉  
（お金）を・得んがために……?  
豊かな國家（先進国）に……やつて來  
る人々……  
仕事に有り付けた……という「喜  
び」は……  
民衆の……〈karency〉の（金）えの執者  
という……すさんだ意識の  
貨幣えの下降だ！……決して上昇  
ではない!!  
（karency）の魅力？に……取り  
付かれた人々の群れは……  
共生ではなく……共食えの……  
サクセス・ストーリーを  
追い求め……大衆は……現実化され  
ない・幻想的（自由）……  
電飾質に彩られた……回廊は統べてを  
吸引してしまう集塵装置  
喰いちらされた……飽食  
のカス……は  
飢餓の上に……降り積もる……踏み  
付けられた・貧者たち（人間たち）  
……追いたてられるように、繁榮え

肥え・・・太る

負、(貧困)を背負わされた人々も、成功(金持ちになる事)への努力をしなければならない!・という人間解放

の闇ざされてしまつた悲しい

・・・・・リアリティーが世界を覆う・・・・・

無窮の廢者たちの・・・・・カル

ニ・パ・ル・は、  
何時・・・始まる・・・?



## 民主主義

2

02・8・10

秋戸 空

十八の時、おれはこの世を知つた

(ランボー詩行)

美しい者たちへこの現象たちがこの世界を造つたつもりに

なつてゐる・・・  
(幻想で被われてしまつた世界)

暴力装置を動かすのは・・・

天空の灼熱なんて知らない・・・  
(エアーコンパーガーの  
灼熱の排気だ!)

人間種社会の幻  
社会の幻想態だった・・・  
観る必要がなければならぬ

大殺戮なのに

この幻想をあきもせぬ繰り返してゐる  
帝國主義という世界状況・!

ドラマ (夢幻劇) (ランボー詩行) を  
幾重にも積んでゆく  
淫ら (みだら) な人間種たちが

生命の破壊・よ!  
これら之上に降りてくる者

おお、ざわめきと幻・よ!

(ランボー詩行)

「ダイヤモンドと金」を貼りつめた

灰色の空のかずかず・・・

不協和音によせ集められた

(ランボー詩行)

旗をかざして・駆け回る

(ランボー詩行)

（民主主義） II 資本主義の

上品な名前

（民衆?）たちが傷利の哭（うた）  
を吹きならす

主催する（音楽会）なのか?!

帝国主義のバカども・め!

屍者 その切れ端は (ランボー詩行)  
無造作にドブ川の裡（なか）に

美しい者たちへこの現象たちがこの世界を造つたつもりに

放り込まれた（ランボー詩行）

無くしてしまった唄をうたう

（民）

一時（いっとき）だけでも

（ランボー詩行）

民衆の骨と肉で築きき上げた  
骨と肉で集いた城からの

珈琲

報復は続く  
降伏はあり得ず  
幸福もあり得ない  
歴史の亡靈  
成仏してくれ

たいした不平は云わない……  
いや、迷信的な記念物（ランボー詩行）  
に、張り付いている（民）……  
總（すべ）てを奪い去ってしまった。  
金ピカのザザエ貝を

のせた海（あらゆる）

（ランボー詩行）

敗戦を今だに（終戦）……と  
この上なく単純な表現  
云いつのる社会性

手紙

苦い思い  
したときは  
苦い珈琲  
楽しい人生  
楽しもう

これらの海死のきらめきをすい積する  
朽ち果てた葉の色（ダイヤモンド）  
色の服を着て歩き回る

日のみえない

こんな世に居るインチキゲンチュア・よ！  
お前たちの役割とはなんだ！  
民衆をはぐらかす言葉を  
いくつも造り出すのを  
考へているのか！

浮き世

雨が上がり  
雲が流れ  
風に運ばれ  
石につまずき  
世界が回った

目明きたちの群れの行列  
ピルジングの間（はさま）から

大陸の諸民族を対象とした（ランボー詩  
行）愚かしい収奪  
支配者に幾つかの欠片を与える

真昼の星

読まずに捨てた  
手紙を拾いに  
雨の中走った  
流れた文字が  
鍵を開いた

沸き出てくる  
クルマの列をなす中に脚をふみ入れた  
クルマたちはガソリンを吸い  
排気ガスをはき出す

（ランボー詩行）  
（先進国）  
『それを捨うな！……』と言つても  
それはむりつてものだ！？

未來絵

あなたという繪筆で  
この世界という  
未来的カンバースに  
見たいドラマを  
夢中で描いて

人間種たちはクルマをのりすて

のみ屋のノレンをくぐる  
（つかい捨て）

月はほえるが

（民）は哭（うた）をうたう思想すら

連鎖

選択

神や真理は  
いくつもあるから  
気にしなくていい  
本当のことは  
誰にもわからない

## 五行詩

近松 雅之

挑戦者

懲りずに人は  
今もこの先も  
無数のバベルを  
建て続ける

花火

穂やかな  
季節の終わりに  
打ち上げる  
晩秋の花火  
燃えて散れ

精選



增  
古

### 第三章 节肢动物

卷之三

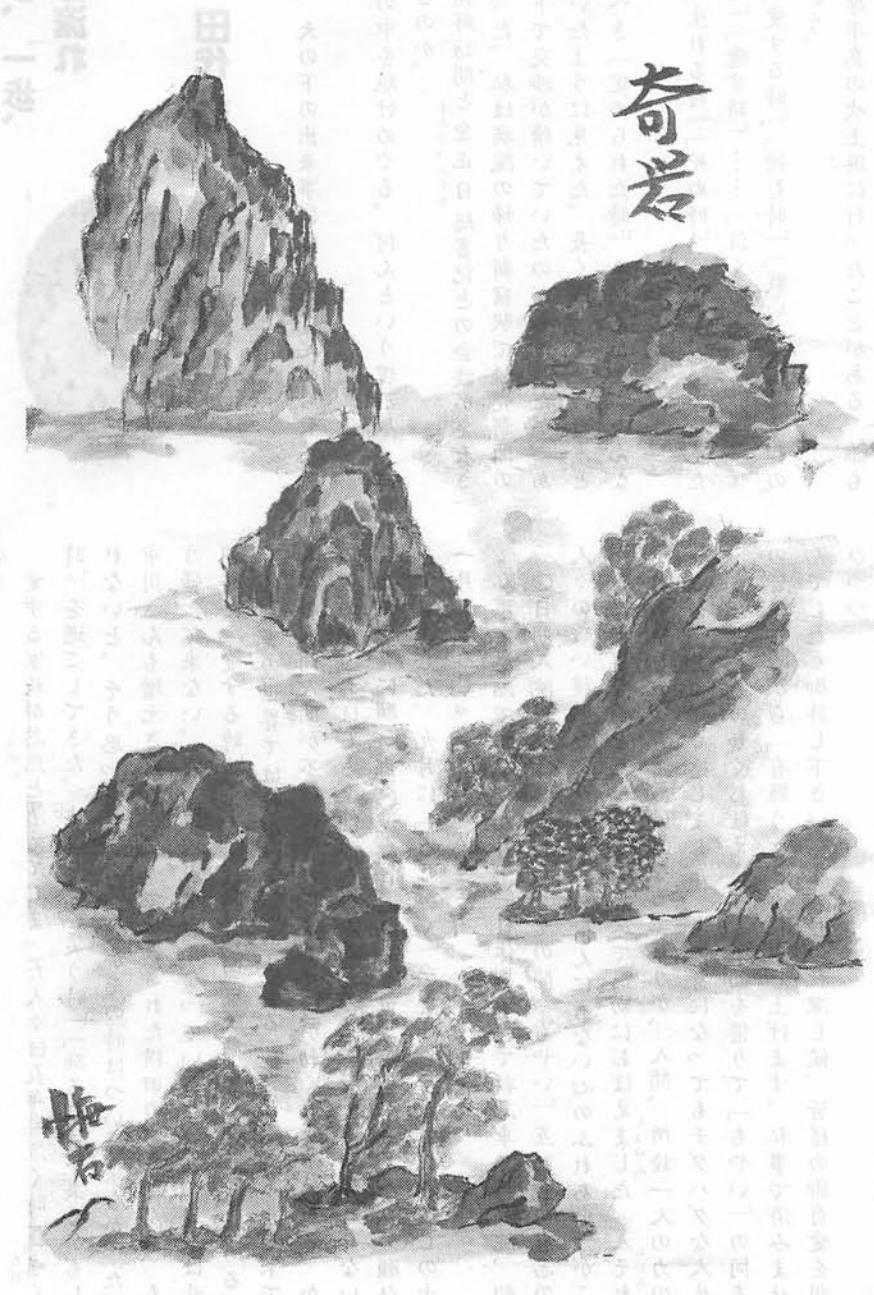
(ナヘ) あをやかま  
うの心のまど

出でた。おまけに、おまけの詠うるおもては、おまけの思ひやうが、おまけ

すとも。おまけ六日、「おまけ」の「おまけ」の「おまけ」の「おまけ」

おまけ、おまけおまけおまけおまけおまけおまけおまけおまけおまけおまけ

おまけ、「おまけ」おまけ、「おまけ」おまけ、「おまけ」おまけ、「おまけ」



奇岩  
山口市立川上河原公園  
西山

# 日、日、一步、歩、 そして時間は流れ 歴史は動く

田代猛



「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」（新共同訳）。

旧約聖書の一節が頭の中を駆けめぐる。何んという理不尽、何という国家が世界にあるのか。小泉純一郎首相の北朝鮮訪問と金正日総書記との会談が発表されたのは先月三十日だった。私は病院の帰り新宿駅で読売新聞の号外を見ました。水面下で交渉が續いていたのだらう。だが、あつという間に歴史が動いたよう見えた。長く滞っていた日本と北朝鮮との関係は動くべき「定められた時」を迎えたか。そんな期待を持った。

旧約聖書は続ける。「生れる時」「死ぬ時」「植える時」「植えられた時」「抜く時」「殺す時」「癒す時」……、「泣く時」「笑う時」「嘆く時」「踊る時」……、「愛する時」「憎む時」「戦いの時」「平和の時」すべて時があるといふ。

愛する家族が忽然と消えてしまった人々は長年「泣く時」「嘆く時」を過ごしてきた。ようやく「笑う時」「踊る時」が来るかもしれない、そう思つたらう。だがその時はついに来なかつた。市川さんも増元さんも十三歳で拉致された横田めぐみさんも、もう帰つて来ない。すでに八人が亡くなつてゐるといふ。日本は北朝鮮と「愛する時」「平和の時」に向けて新らしい歩みを始める。旧約聖書の世界では神が時を定め決める。近代民主主義國家で人々の人間人間が不斷の努力によつて時が動く歴史が流れる。かの國の神とおぼしき全能の人がふたたび時を歴史を逆転させないことを切実に願ひ祈る。「歸らぬ時」を思ひつつ、そんな私の願ひを記しました。九月に「ろじゅく」で会い、そして又冬近しの十一月又「ろじゅく」で会ひませう。

私事で恐縮ですが、九月十一日体調不良で救急車で再入院、約一〇日間入院退院致しました。その間「もやい」互助会の有志の人々の暖い援助を受けました。「何んにもない心のふれあい」がこんなに大事なことだと苦しい病床で痛切におぼえました。人それぞれの生き方、考え方は異なるでせうが、人間、所詮一人の力の弱さを今更の如く感じました。老の身になつてもチグハグな人生のものを抜く時」「殺す時」「癒す時」……、「泣く時」「笑う時」「嘆く時」「踊る時」……、「愛する時」「憎む時」「戦いの時」「平和の時」すべて時があるといふ。

三十数年前の冬の薩摩半島の吹上浜に行つたことがある。誰もいない砂浜はさびしかつた。静かな波の音が私の心に寂しさをかすめた。七八年八月一二日、「夕日を見に行く」といつてこの浜に出かけた市川修一さんと増元るみ子さんが行方不明になつた。こ

の事件を含め政府は八件十一人を北朝鮮がかわつた拉致とみていた。

愛する家族が忽然と消えてしまった人々は長年「泣く時」「嘆く時」を過ごしてきた。ようやく「笑う時」「踊る時」が来るかもしれない、そう思つたらう。だがその時はついに来なかつた。

# 恐山

恐山と聞くと、やはりその名の通りちょっと恐くてミステリアス秘境というイメージを抱く。

青森県下北半島の中心都市むつ市から約十五キロ、北西の山中に位置する恐山。

実際に車で登って見れば、道路も整備され市街地からさほど遠くなく、参拝者用のバスが走っていた。しかし、山に近づくにつれ鼻につんとする硫黄の臭いにつつまれる。

やがて鮮やかなエメラルドグリーンの字曾利山湖が広がり霊場恐山に到着した。訪れたその日は、ちょうど夏の大祭（七月二十日～二十四日）期間中だったので多くの信者さんや観光客でにぎわい、この期間中だけ行われる「イタコの口寄せ」にも行列ができていた。

現在、宿泊施設「宿坊」本尊安置地蔵堂から続く「薬師堂」「回廊」「不老閣」の老朽化による建替え建築工事が行われているのです。

宿坊施設の目玉は、温泉だそうです。工事も靈山への畏敬の念を忘れず、安全や環境に細心の注意を払いながら工事を進められているということあります。（完）



# 清翠

親子連れで、歩道を歩いている親子猫。降りしきる雨の中を、庇いながら歩く人間だけて底いながら生きている。暗い空から、夜通しなく冷たい雨に、うたれ、小猫の泣き声が、ものさびしく聞こえてくる。

どこか、子猫が怪我をしているのだろう親猫は、子供にニャーニャーと励まし

今夜のねぐらをさがしている。薄暗い路地裏のネオンの灯りが猫達にここは雨が降つても、大丈夫だよといつて猫達をむかえられるような路地裏である。

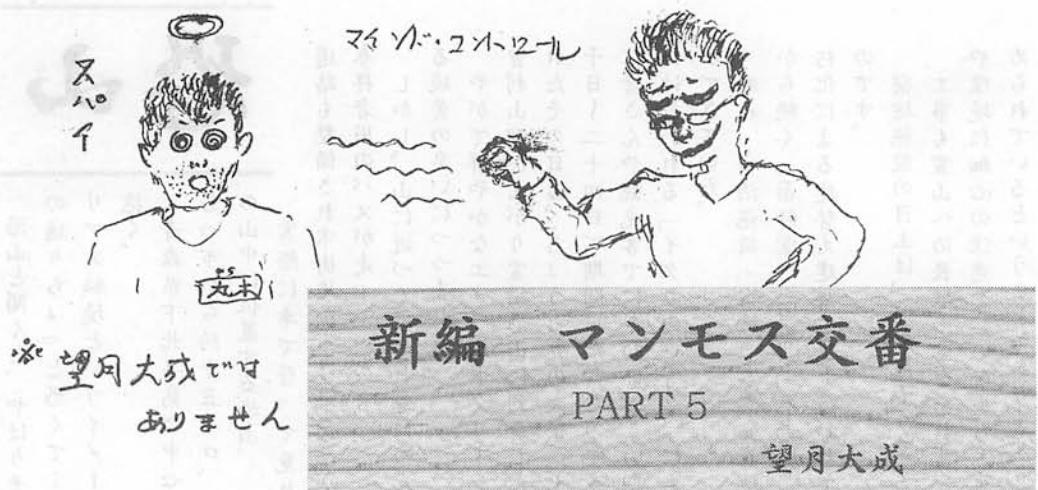
ネオン灯が、やけに何重にもかさなつて見えた。今夜の寝間を見つけたろう、親子猫は路地に消えていった。それからは、幾久しく見ていないのである。その何日かわすれましたが、親子猫達の消息をきいたのは、二、三週間であった。

それも、変り果てた姿で、見つかったそうです。近所の動物を好きな人が、川原を散歩していた時のこと、その人が、通りかかったときに、ニャーと一声泣いて西国へ旅立つたと、ききました。子が親を殺す、また親が子供を殺す世の中本当に、猫を弔いしてくれた方に、

ありがとうといいたいくらいです。私もその人と一緒に、親子猫の墓を参つてきました。墓には、バラの花が雨にぬれ、青空のない中、鮮やかであった。

（完）

# 運命



オウム事件捜査本部 まことなら大成隠居ですべて聞  
えつ、三上 そんなお巡り おらぬなり 人騒がせは  
もしやオウムの とうに卒業  
スパイなるでは 元刑事・解隠居して余生のんびり 本音かな  
その通り いるはずあらず オウムとは 老の細道  
君に近づく パトカー三台 鳩と雀と  
出枯らしのダシ とんだお粗末 三上奴<sup>やつ</sup> 手帳は見せず ノート取り  
お笑いや 三上現れ 百十番 職務違反の  
寝たふり 浅警 小形ノートに 身分隠して  
金町ひと言 何も語らず 大成  
バタンキューして 絶対に手帳は出さず供述は  
浅警のニックネームは寝たふり署 ポリ公は手帳使うがきまりなり  
マンモス城は いつもお昼寝 忍者三上は  
いつもお昼寝 バタンキューして メモ書きをして  
寝たふりは天下一品 浅草署 えれえ奴  
本序の三上に手紙 御返送 引っかゝりとはデカの声  
受取払い 権力とカルトファミリーは一つ穴  
宅配の便 手の内探し 忍者なら何をやってもやり方題  
代金は三上が弁償 損はなし サツの曲者  
とゞのつまりは 忍者なら何をやってもやり方題  
サツの仕払い 浅草署長  
許すまじ 浅警までがボロ隠し 馬潰す手は  
忍者野放し 真紀子氏の言葉ならずも伏魔殿  
手は出せぬとて 化け物屋敷  
サツとアンチヨは

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

近づくな イエロージャンパはスペイなり  
アンチヨの手下  
君を取込み

**大成**

忍者三上 公にできるはずなし サツの恥  
左遷 分限 裏でこつそり

知りたきはアンチヨのお手当 いかゞなる

まさか馬並  
七千円では

一市民 サツもアンチヨもなかりけり

正々堂々逃げ隠れなし

だまされてパートのスペイ 七千円

ビンボー神に  
バチリ守られ

忍者三上 浅警の不正はちゃんと御報告

力及ばず  
上司動かず

元刑事 よく云うぞ 三上自身が立役者

その場限りの  
嘘とデマカセ

忍者三上 浅警の不正はちゃんと御報告

力及ばず  
上司動かず

元刑事 よく云うぞ 三上自身が立役者

その場限りの  
嘘とデマカセ

大成 八年も前

忍者三上 浅警の搜査妨害

貴様五林と  
八年も前

三上確約

元刑事

大成 アンチヨーの総親分は法務省  
ゆすり、たかりを  
法の役所が  
裏で指揮して

元刑事

名ばかりの法治国家に法あらず  
法の役所が  
法を骨抜き

忍者三上 飯を食うたゞそれだけのぶら下がり  
浅草警察 肩がごろゞ

自然の理 元刑事 裏に金町 余禄つき

元刑事 ポリ公皆肩

二警官 とかげの尻尾じやお氣の毒

どうせ首ならし屋

三上には能ある鷹は使えまじ

三上自身が  
まるきしのバー

ノーならの三上にあらばスペイとて

能ある鷹の  
いるはずがなし

大成 底なしのバーにてあらば子分まで

バカとキ印  
わんさこら、

忍者三上 大呆れ よくぞぬけ、恥知らず

メモ取るな 電話番号 日記だめ

君の安全 いざという時

元刑事・解

だまさるな 忍者が逃げの尻尾切り  
証拠隠滅 サツの安全

弁護士 疑わし 三上の名とて偽名やも  
まずはバッヂシ  
証拠写真で

元刑事・解

御印籠 手帳にあらず手帳抜き

手帳見せぬは  
サツのインチキ

危なければイエローカードの御印籠  
助けさん、格さん  
天下後免で

ダラ幹とサツの忍者は一つ穴  
むじな同志が  
え、かつこして

御印籠 開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

ぼそゝと聞き捨てならぬ立ち話  
この会館は  
やくざ屋の城

老人が海で大魚のバカ話  
得たる獲物は  
骨ばかりでは「老人と海」

陰謀で敵対勢力 馬殺し

東村山

議員消されて

最高の働きなるや ××党

三上追及

大成 背水の陣

馬社会とて

過激派も忍者と知らばたらならず

ホンチヨの雑魚と

格が違えば  
ゲリラ百万

馬暮し 山谷はまるで迷路かな

ポケサツが下手に動けば地雷源

雨後の筈

『審判』に似て

謀略の渦巻く街の山谷では

スパイ、やくざ屋

掃いて捨てるは

大成

過激派使つて

三上潰しは

その通り 正しくこれは白痴文

④文学 大成の敵

あだ花の白痴の文にあてられて

発狂寸前

ボケの三上がる

過激派もさすが逃げ腰 知らんぶり

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

過激派もさすが逃げ腰 知らんぶり

鬼の三上に 指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

元刑事  
手帳にあらず手帳抜き

サツのインチキ

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

開けばさつと後光さし

署長閣下が  
バチリ土下座は

やめたくば三上と交渉 縁切状

内満解決 君のお力

呆れたり 虫が良すぎぞ 浅警は

ない袖振つて 逃げの口上

山にきて日毎、が崖つ瀬

四つ足人生 ひづめ足して

お手当はたつた七千 吸上げは

その倍の倍 サツの商法

モラルなき社会なればぞ 三上あり

山にのさぼり

大成も甘き見通し とんだボカ

過激派使つて

三上潰しは

大成

過激派使つて

三上とてちゃんと通用 ポケのサツ

腐れ世の中 救いなしかな

指の一本

サツチヨでは悪徳お巡り 裏の権限

厚く保護され

ボケサツの雑魚にはあれど忍者なり  
ミス、大魚

お見逃がしとは

## 意見広告

○ホームレス（経験者）の中から国會議員を誕生させ、日本を破滅から救おう !!

賛同者カンパ、金額自由

振込先

郵便振替口座 00160-6-190947 「ろじゅく編集室」

\*「五渕提案に賛同」と記載の事

○国會議員の皆様へ、ホームレス自立支援法成立、ありがとうございます。次はホームレスの中から「国務大臣」を誕生させて下さい。

○宗教指導者の皆様へ、国會議員、大臣、政府首脳の方々のために

祝詞をあげて下さい (神官・神道)

お題目を唱えて下さい  
読み経をして下さい } (仏教指導者)

お祈りをして下さい  
ロザリオを唱えて下さい } (キリスト教指導者)

<国民の皆様、政治家の方々の為に祈りましょう>

○都道府県知事の皆様

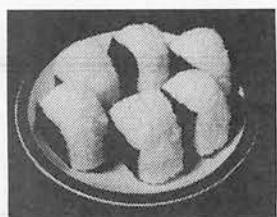
全国自治宝クジに「ホームレス支援ジャンボ宝クジ」  
を発行して下さい。

五渕四郎 2002.8.25

不許複製

路上文芸総合雑誌「露宿(ROJUKU)」第21号2002年11月1日発行(隔月刊)

〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13 ろじゅく編集室



にぎりもやい

## 定例集会から

いさむ

去る九月十五日は敬老の日 「にぎりもやい」

にぎりもやいとは、簡単にのべると、四谷、日比谷、有楽町、東京駅周辺の野宿者をおにぎりとお茶を持参し、毎週土曜日一人一人に安否や近況を語り、相談、福祉活動をも行動している岩田さんを代表とする支援団体。

「四ツ谷おにぎり仲間」と云う名称でもやいと交流会併した、もやい互助会の仲間である。

集会室には十八名の方が参加され、それぞれ自己紹介と現在の心境とを語り令、人それぞれ悩みがある事を知りました。介護支援及び障害手帳受理手続きの問題など私はその方の専門家ではありませんが、自分が体験し得た事をお互ひ納得のいく方法を語りました。私達は野宿生活から脱出、支援者のお陰で現在こうして生活保護を受けている仲間が定例会に出席、ある時は各担当「医療、労働、福祉」の方々をお迎えしての勉強会を開き、良き勉強にもなり感謝している。自己満足せず、年齢的に六十才以上が多くお互ひ助け合って生き抜いて行こう。現に野宿生活を営んでいる日々は私は長生きをしようなんて考える余地もなかつたが、現在は朝、目がさめたら偉せだなアとつくづ感じる。私の胸の中には、新宿連絡会笠井さん、もやいの稻葉さんその他多數く、私を支援してもらっている方々にはどれだけ感謝とお礼を云えば良いのか生涯恩に報ゆる事が出来るのか、いや例え僅かでも報いる様に心懸けている。

その中で、にぎりもやいの岩田さんから、長生きするには、と云う課題があり、みんなはその課題に取り組んだ。長寿するには、どの様な点が必要なのか、長生きするには只年を取るだけでなく人として生申變を見つけ余生を送るべきかと私も改めて考へるべきと知りました。長生きするには一休何を目的にすれば良いのか、先ずは、健康(食事)、お金、友、この三原則を生活上

合掌

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

に心懸けて置くべきである。

その他には発声、読書、筆記、娛樂も存在しボケない秘訣でもあると云う事だ。人生について語り合ひ、私にもかつてない光明が差して来たようである。

敬老の日、私は仲間の中では一番の老人なので恥かしくもあり、良くここまで生きて来られたものだ、実際路上生活を続けていたらこうは生きてはいられなかつた筈だ。岩田さんから記念品をみんなの拍手と共に頂いた。私には誕生日さえ祝ってくれる家族もなく、心から祝ってくれた仲間に有難たうと説べたい。

現在野宿している仲間達。一日も早く自立支援センターなどの施設に這入り、自立、又は生活保護を受け、もやいの互助会員として、仲間と一緒に学び語り行楽を共にし、助け合はうでありますか、お待ちしております。誌上ではありますぐこれから寒さが接近する時期、身体に氣をつけ頑張って下さる事を、心から互助会員一同願っております。

佃公民館にて

敬老の贈り品 手に取りて

厚き心にこぼれる涙

‘02.9.1

絶望の世  
この物語に出てくる人物はホームレスである25年ぐい。  
この世は東京台東区山谷という戸所にきて、仕事もできなく、住んでいて、今の年令は50才くらい。仕事もできなくて、誰一人お金が能力もなくて、人達の寄付金で生きています。しかし、何もない、寝る所は足らず、どこで生きる人達である時々、何か時代とか、時間とか、希望もなく、家族もなく、真実の悲劇だけが、ある所

‘02.9.22

太郎の夢  
俺は山谷がゆく

國のよに  
どこか遠くへ、海が見える所  
が……變せる人かければ……  
今の俺は、お金がなく、仕事も  
なく、何もない。現在、國のように  
“や蕪”的のように。

詩子のバラ

もしもし 詩子のバラは元気ですか、毎朝北を向いていますか、太陽に向って生きていますか。いいえ詩子のバラは、夜の月に向かって生きる不思議な、逆バラ、西向くバラ

明治・天王（日王）は、幕末の大陰謀・軍団により、デッチ上げられた影武者であり、本名は、長州（現山口県）熊毛郡田布施町麻郷助政二一六

五 大室（家）出身の大室寅次郎（氏）（長州、忍者、力士隊所属）である!!

代行柱人崇神後宗倭基（文責）

『去る八月八日、A・Sデーヴィッド氏は、

暴漢に撲殺される寸前、撃退したが、身のキケンを感じて、外国に（極秘のうちに）出国しました。故、不肖、後冷泉基嗣が、氏の原稿の続きを代行する事になりました。私も身のキケンを察知して居りますが、眞実は左翼や右翼等の過激派や国家権力の奴大たるボリスや公安の連中の弾圧によって曲げられるモノではありません!!』

真正明治天皇謀殺、幕末の孝明天皇暗殺に関する参考資料は、「明治維新の生贊」誰が孝明天皇を殺したか!鹿島昇他二名著、新国民社（東京渋谷道玄坂ビル9F）を御参照下さい。「なお、渋谷の南口の東急プラザ5Fの紀伊国屋書店に一冊（歴史書のコーナー）だけ在庫がありましたが、売り切れました。どうしても購入したい方は同書店に問い合わせて見て下さい。」

日本・最高の大陰謀家は、古代（奈良時代）では、道鏡・法皇と称（正）徳・女帝を焼殺した、百濟・王族の残党の藤原百川。法皇は、奈良時代、官奴、奴隸解放の旗手だったのです（東大寺、古

文書参照の事）。左翼系の学者はどうして、世界・最初の奴隸解放の先駆者の、道鏡・法皇の知られざる事蹟調べぬのか？彼等も又百済系陰謀史軍団に洗脳され、一三〇〇年近く経つた現在でも旧皇國史觀をそのまま、信じて、現在に到つてゐる!!

民をして、知らしむ不可!!依らしむべしは、七〇一年の大宝律令以来、現在まで生き続けてます。あ、永久に、永遠に、左翼、右翼の曲学阿世の大学者様方は、ダマサレ続けて、得意満面でしよう。

幕末の吉田松陰氏は、近世、最高の天才大謀略家であり、幕府により惨殺されても本望の筈!!徳川（江戸）時代は、徳川家の血統の明正・女帝（後水尾・上皇と第二代秀忠の娘との間に生れた皇女）、孝明天皇までの徳川の血統、血縁の者のみ、皇位に着いている事実は言を俟ちませんが、孝明天皇とその真正実子の陸仁・殿下を明治天皇として即位寸前、暗殺し、その仕掛け人が幕末、明治時代は最高の神人として尊崇された、彼、吉田松陰氏。性病の為米国船による渡航渡米が拒否された事実は、当時の米国の外交官アーネスト・佐藤の文書に記されて居ります。長州に亡命した南朝・長慶天皇の子孫が大名家である、との事ですが、大内家、毛利家、超マル秘の史実をどうやら握って、幕末の長州七郷落ちの常宿の家柄となり、その家から長州人の、天子様が出現した訳であります。

明治維新は何の事はない。長州と薩摩の大陰謀軍団がデッチ上げた旧南朝の復活!!復權だつたのです。

長州・毛利も、薩摩・島津も、南朝系であり、平家の落人の末裔であり、その片棒を担いだ者共が、幕末の志士死屍であり、その子孫共が、明治・大正・昭和・平成を日本国家権力の中核の黒幕や、背後靈団となつて現在に至つてます。伊藤博文氏、木戸氏、西郷氏、徳川慶喜公、三条公、一条公、岩倉公等、大凶悪犯人!!七名が孝明父子を暗殺し、明治維新をデッチ上げ、長州の南朝の子孫と自称する無名の一五才の青年を明治大帝にまで、超出世させた真犯人です。幕末の孝明天皇とその宝子の真正・睦仁・殿下、彼が明治天皇として即位直後に暗殺されたとする說もあるが、どうも即位、直前が眞実のようです。殿下と大室氏の入れ変わりの時期は、そう解釈せねど、理解出きぬのです。「乞食と王子」の童話が、まさか、日本の幕末に現実化されようとは、スゴイですね。即位した人物を暗殺するのは、難事中の大難事ですが、即位前の人物を誘拐して、乞食姿にして、その身分を示さずには暗殺専門のコロシ屋に、コロセレバ、コロシ屋もズバ、ズブ、ズブ、とめつた刺しに、コロス事が出来ますモノ、ネ。その暗殺數ヶ月前から、阿片や石見・銀山（ネコイラズ）や、砒素、トリカブト、フグの毒、等々を御毒見役も、西洋御殿医・侍医、典薬・漢方医も、当然、大陰謀・軍団の手下になつて、グルなつて、殿下に仕組み続けたらどうでしょう。惨殺した後、御丁寧にも、心臓を十二分に刺し貫き、その後、首までギューッと絞めつけて、その死体は完全焼却して、マル秘公家の墓場に埋めてあるのですよ!!

老い 宗春

高齢化が進む今日、ふつと考へることがある。

これらの老人の問題はどのように変化するだろうか?と自身に置き換えてみる。私も年寄りの身に入るだろうが、そんな事は言つておれない。時には色々と相談をされることもあるからだ。これららの余生、どうしたら良いか、とくに自分に振り返って来る問題だと思う。

こここの所、高齢者問題が取りざたされている言葉が多い。昔風に言うと老人とか年寄は、六〇才古希稀なりと言う七〇歳のなやみがある。とくに働くされなくとも生かされている。そういう中で不満ようだ。その中でも体の調子が悪く目が見えにくくなつたとか、耳がこえずらいのは、すごく高齢者、又老人に見えたものであるが、今はとかく元気な人が多い。お陰様で私は老いても体は大丈夫で何とか人の世話をしている現状だ。けれど、この先半年後、一年後はどうなるか?考えていないし目標があるようでは無いが、正直に有りのままに一日一日を送ることだろう。そして老いたる人生を明るいものに願ひたいと思うのであります。高齢化社会が穏やかと思える日が、一日も早く来ることが望ましい。これらのことばは老いの愚痴かも知れぬ

小

一

朝もやや  
心静かに  
はれをまつ

山道も  
紅葉紅づけ  
おでむかへ

泥沼に  
明どもした  
はなしょうぶ

男なら  
花火のよおに  
ちるだけさ

人生お  
えがおでわたら  
信号待ち

○ 82.8. ルテナリン録 リルバス録  
山谷のタケちゃん  
タケちゃんが山谷に住んで25年  
じぶいたつと言つて  
毎日酒を呑んで寝てばかり  
木ーんレースで  
寝て起きないつかれたと言つて  
また寝ていつも女性の下着  
の色ばっかり考え方  
色本を読んで空想して  
ゴミ箱から食べ物をたべて  
浦は件向かいながら呑んで  
また女性の下着のことを考え方  
一日半寝ていいからでもう

8月11日千葉公園で野宿していた  
二人が若、男に暴行されて殺される。  
改めて野宿者は日常に死と直面し  
ていると思った。  
**せみしぐれ 橋安純**

もしかして、パート

## 同棲中、只野醉払

8月10日、土曜日、6時起床、久しぶりに大掃除をした。

朝食時、昨日から続いている田中真紀子議員の辞職ニュースを見る。それはあまりにも突然だから、多くの人が驚いている。

昨年6月8日に、この百人町清林荘に引越ししてきた。一年二ヶ月を過ぎたが、アパートで過ごす時間はほとんどなく、いつも帰つて寝るだけだ。そんな生活のなかでもゴキちゃんの多さに閉口してきた。特に暑くなってきた今日この頃は、目の悪いロダンでもやたら目につく。この一年間に使用した殺虫剤はダニアースたった一本だけだ。時々タタミに刺して使用したのと、ウロコヨロするゴキちゃんに吹きかけただけだから、今までその一本だけで済んだ。このゴキちゃんたちをどうするのが一番いいのだろうかと考えた。

水曜日、にしき町に必ず来てくれる仲間がよく鳥の話をする。

鳥カゴの話しだ。一週間ほど前、同棲虫のゴキちゃんたちに家をプレゼントしてあげようと考えた。何んと素晴らしいアイデアが浮かんだものだ。さっそく、新大久保駅前にあるマツモトキヨシへ行つた。

ゴキブリホイホイ、ゴキブリゾロゾロ等、素敵な家構えのイラストを見てゴキブリゾロゾロに決めた。箱に5ヶ入り、二箱売り約400円弱で買った。アパートに戻つてすぐに図解を見ながら組立てた。冷蔵庫の横、サイドボードの両側等5ヶ置いておいた。

大掃除が終つてゴキブリゾロゾロの家中を見ると、一箱に数十四のゴキちゃんたちが安らかに眠つていた。なかにはまだ手足を動かしているのもいたがやがて心静かに眠つてくれることだろう。ロダンの心からのプレゼントにゴキちゃんもよほど嬉しかつたのだろう。みんな笑顔で眠つている。

今日はAAにしき町グループのフェローシップ。

日時	02年8月10日(土)～8月11日(日)
宿泊先	敷の湯みはらし
宿泊費	山梨県北巨摩郡武川村柳沢
交通費	8400円
集合場所	立川～蘿崎
JR立川駅9：30	6・7ホームの東京寄り

立川9時49分発、高尾10時2分着、発10時20分で蘿崎12時25分着。14時に送迎バスが来て、14時30分にチエックインの予定となつていて。

ロダンは新宿百人町に住んでいたから、少しでも交通費を安くまかなおうと思つて高尾で合流することにしていた。京王線で新宿高尾間は350円で行ける。ちなみにJRだと650円だ。単純に計算しても往復で600円も得だ。

アパートを8時15分に出て、のんびり新宿まで歩いた。京王新宿駅に着いたのは8時40分少し前、京王八王子行きが40分、それに間に合つた。特急は北野駅には止まらないから高幡不動駅で捨てた。普通に乗り換えて北野駅で高尾山口行きに乗つた。高尾駅に着いたのは9時30分だつた。

仲間が高尾に到着するのが10時2分だから少し時間がある。駅周辺を歩いてみた。

高尾には二ヶ所ミーティング場があつて、火曜日は北口にある浅川市民センター、土曜日は南口の福祉センターで毎週19時から

## 路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

20時30分の間、AAミーティングが開催されている。自省館時代のロダンはこの両会場には大変お世話になつた。かなり多く来ているのだが高尾の街は全く知らない。街に来ることと、AAミーティングに通うことは全く別の事のようだ。南口を出て、京王ストアからダイエーの前を通り、駅東側の高架の下をくぐつて北口へ向つた。北口は駅を出ると下り坂になつていて、すぐに甲州街道に出る。甲州街道を西に行くとまもなく浅川市民センターがある。いつもと違つて明かるい陽差しの中を歩くと受ける感じがかなり違う。

10時を過ぎたので北口からスイカを使って入場した。入ったホームが2番ホームで10時20分発小淵沢行きはここから出発する。ホームを東京寄りに歩いて行くと忘れるはずのない顔があつた。数えてみると7人だ。どの顔もにこやかだ。

「おはようございます」

「ヤアーどうも」

「天気がいいネ」

「夏、真盛りだよ。暑い、暑い」

「予定通り、順調に進んでいるよ」

などと話をしていたら、高尾始発の電車が入線してきた。そして、定刻どおりに素敵な今日一日は出発した。

途中、検札が来た。スイカを見せると車掌は、さも申し訳なさそうに、「薙崎はスイカは使えませんので現金で支払って下さい。大月までは使えるのですが……。」といわれ、1680円のスカイ支払いの130円を差し引いた1550円を現金で支払つた。

いくつかのトンネルをくぐり、車窓の景色は今日一日を緑にしてくれた。

12時25分、薙崎到着。

駅前のイトーヨーカ堂に入つて昼食、冷しうどんを食べた。いつもはレンチ料理のため外食の時は麺類が多い。

14時に宿からの迎えが来ることになつていて。少し早いと思つたが、13時45分に外に出てみた。丁度駅の方からマイクロバスが来て来た。バスのいたるところに「薙の湯みはらし」の看板を

背負つている。運転手はあたりを気にしている。お互いの想いが火花となつて散つた時、バスはロダンの前で止つた。

運転手は窓を開けた。ロダンは声を掛けた。

「9人組の迎えでしよう」

「ええ、そうです。Mさまご一行9名さまです」

「やつぱり、これだ。ちよつと待つてて、今、みんなを呼んでくるから」

「まだ約束の時間前だから、あわてなくともいいですよ」

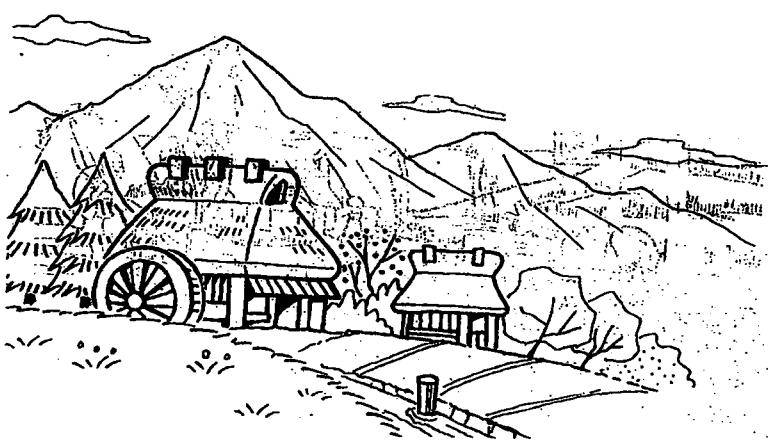
の声を背にして、ロダンはヨーカ堂の入口へ向つた。そして、入口にいた仲間に、

「迎えの車が来たよ」と声を掛けた。

自動ドアを開けてくれたので、一番乗りをした。ほどなく8人が乗り終つたがひとりが不足している。

「ちょっと、駅の方を見てくるヨ」といつて、ロダンは駅へ向つた。

駅の入口に入ったとたん、その仲間がいた。「やあ、やあ、いた、いた



「どうも、遅くなつて」

「今、迎えの車が来たんだ。行こう」

等と会話を交しながら車に戻つた。

「ハイヤーパワーだよ。ロダンが迎えに行つたから、ちゃんと駅にいてくれたよ」といながら、再び車に乗り込んだ。遅れた仲間もすぐに乗り込みながら、

「どうも遅くなつて、すみません」といながら再会の挨拶を交していると、運転手が

「では、出発します」といって、藪の湯みたらし看板者は発車した。

尻岩トンネルをくぐるとほどなく国道20号に出る。牧原で甲州街道(20号)とさよならした。バスは富士山とバイバイしながら八ヶ岳へ向う。大武川の脇を走る。土曜日の昼過ぎとあって、川原には家族連れが多い。飲んでいるころは、30分もバスに揺られていると500mlの缶ビールが2本は空になつたものだ。それが、今日は景色に見とれている。

左手に見える鳳凰三山、地蔵岳(2764M)、観音岳(2841M)、薬師岳(2780M)、左手前方には甲斐駒ヶ岳(2967M)が9人の仲間の安全を見守ってくれている。天気はいい。飲まない今日は一日の同じ想いを抱いた仲間のドライブは終点へと近づいた。急坂の上に旅館が見えて、道は行き止まりになつている。車は進みたくても進めない。ドアが開く、入口のすぐそばにいたから、一番先に降りた。旅館の入口の左側に白い椅子が置いてある場所から素晴らしい展望が開けていた。

緑の今日一日は素敵に進んでいる。  
さすがに女性二人は別部屋だった。男5人と二人の部屋割りになつていた。5人部屋で今夜のプログラムを進めることになる。

次々とお風呂に行つた。そして、お風呂からの景色は素晴らしいといふ。ロダンがお風呂に入っている時、服を着たままの仲間が入つて来た。手にカメラを持っている。

「あんまりにも景色がいいので写真を撮りに来たよ」といって、

アングラを変えながら数回シャッターを押していた。ほんと、い景色だ。

おおみそかの御嶽山荘での昨年最後のお風呂を想い出す。時間も同じく15時だ。真夏と真冬の、そして、山あいのお風呂。ここでも、やつぱり、つくづく、お酒を飲んでいないからなんだなあーとの想いが強くなる。

プログラム通りに、たんたんと進行している。森林浴のハイキングは山の空気が、ようこそいらっしゃいませといつていった。

18時予定の夕食が15分遅れで始つた。待つてました。イヨータマヤーならぬ夕食。

素敵な今日一日を願う仲間の「いただきます」は絶妙のハーモニーを奏でた。

ロダンは早く食べるのが得意技だ。そしてきれいに平げる。残

つたのは、エスカルゴのカラだけだつた。隣りにいた女性の仲間が大盛についでくれたごはんを少しもあまましたが、一呼吸をおいて何とか食べた。まわりの仲間が、その食べぶりを見て、タマヤーならぬタマゲタ顔で見ていた。

鮎の塩焼きは頭からシッポまで、骨すら残さない。天ぷらのエビはシッポがショリショリとおいしい。ウナギの皮は残さない。カルシユームが不足しないわけだ。

ロダンは健康には特に気を使つていて。家も、別荘も、そして

生命保険や、老後のためのものが何ひとつない。この体だけが資本なのだ。そして、天涯孤独だ。

食事の時、旅館から20入りウーロン茶一本の差し入れがあつた。アルコール飲料を全く頼まない9人の客を不思議に思つていておひつを用意していた。こんな客、めつたにいない。はずだ

19時から、キャンドルミーティングだ。プログラムの予定表に手違いがあつて、終了時間が20時30分に訂正された。9人だから一人10分平均の話す時間がある。懐中電灯が用意されていた。三章、五章を読むためのものだ。キャンドルの炎は仲間の心を照ら

## 路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

す。そして、わたしたちはいつもどのようであつたかを照らして  
いた。そして、何が起つて、今、敷の湯みたらしでのキヤンドル  
ミーティングがたんたんと進行していた。

仲間がいった。

「今、ここにいる9人の仲間の共有する90分を大切にしたい。  
お酒を飲んでいいからこそこうして集まることができたのです。  
ハイヤーパワーに感謝、今日一日に感謝です」

21時予定のラッフル。献品がなんと38点も集つた。誰れもが9  
人のラッフルに不安があつた。その危機感が楽しさに変つていつ  
た。キヤンドルミーティングが終つて、特にすることもなく談笑  
していた仲間が、誰れともなく、少し早いけどラッフルをやろう  
よとの声で始めることになつた。20時45分だつた。

結果が面白い。2年未満の仲間に当たりが集中した。イオカードは当然のように歩いているロダンに。赤ちゃんのエプロンがあつて14年の女性の仲間に当たり。ラッフル終了後首にかけての記念写真は最高の笑いを呼んだ。楽しい今日一日をの9人の想いは完全に一致してプログラムは進行している。部屋に、カラオケの機械があつたが、唄えなかつた。

23時ごろだつたろうか、仲間が戻つて来、

「ロダン、オレ明日甲府へ行つて山梨地区委員会に出るよ」と  
いってきた。

ロダンは即座に返答していた。

「それ、ロダンも連れて行つてよ。ロングも行こうよ」と。

「ロダンが行くなら行くよ」と、ロン。

明日の素敵なもの今日は一日の予定が着々と組まれていく……。

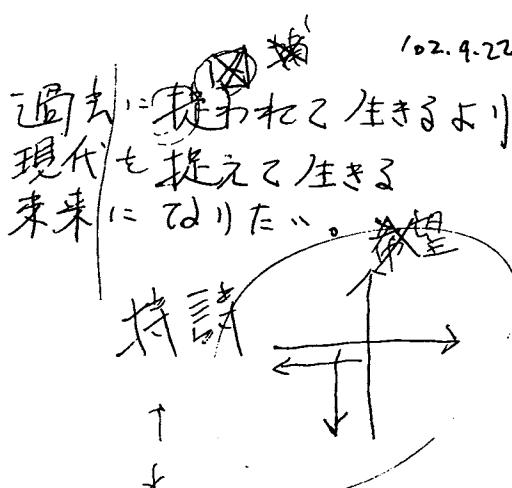
そして、  
9人の仲間と山の夜は、静かに、安らかに眠りについた。  
朝、6時には全員起き出していた。プログラムにはなかつたが、  
山の朝を9人の仲間が共有していた。山あいからぞいた仲間の  
愛の太陽は、当然のように、平等に、均等に9人の仲間にふりそ  
いでいた……。

平成14年8月15日記

まろっき山岸友と  
初めからもないのだ  
そんな豊田“い”  
岸ニ佐ツトクのも大夢だ

(はな)

’02.6.26



□ 今日から過去はいいで これから明日を探す俺  
の道、誰も理解してくれなくて…俺の道  
ただ個人的に探した俺の道、  
山谷から出るに出来ぬくとも、のたれ死に  
しても、俺が探した道

# 水道町より

新潟県新潟市水道町。日本海すぐそば。近頃の事  
件他どうではない緊張感漂う場所に住んでる。  
「人々間」た大勢に引きない社会に未来は無いと遠くや近くを  
眺めながら心から田舎う。

果たして会話は盛り立つのか。「よしめは少し」とまどった。

友人エイちゃんは小学生。耳が不自由なので補聴器を耳につけ手話も使って話す。

友人ささんはアメリカ人。日本語も結構話せるが手話はわからない。

英語も手話もかなりいい加減でいつも「静」のままで

話す私。たまたま三人が顔を合わせたある日のこと。

私は中継しなければとこゝ思って大忙しだった。

エイちゃんの声と手話を聞きながら人に伝える。

エイちゃんの話を手話も添えてエイちゃんに伝える。

こゝか入り乱れてささんに手話を話しがけ、アリーリーと笑う。

…そのうち戻がつくと三人で楽しく会話をしていた。身振り

手振り、単語つなげて、表情豊かに。ネコも足元に

やってきて「マーマー」参加（？）。

「なんや、思ひが込もってればなんとがなるやん」

じつも近頃 頭の中であれこれ考えて 日々よく出来ないとあきらめないかい? と、自問した日でした。

高橋 美香



# 路上 ふらり 散歩

第21巻

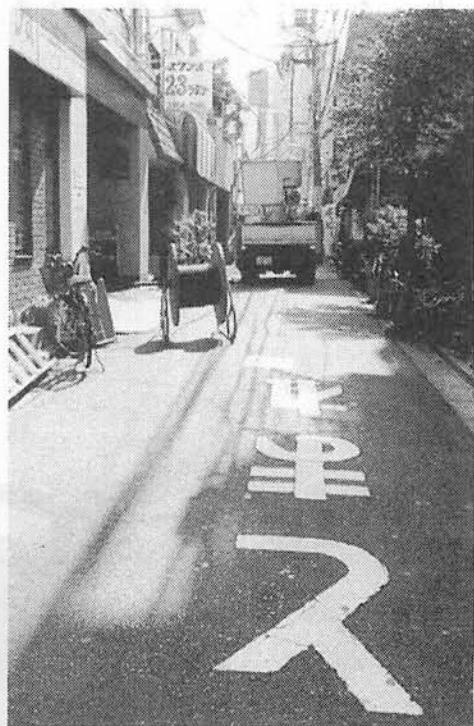
「ハッピーロード  
～板橋 大山」

写真・岡田知子  
文・笠井和明

東京が嫌になつた。

都市は変わる。変わらぬ夢をと云うつもりはないが、変わり方は何の検証もされずに、ただ、変わる。それを見上げ呆然としているだけの東京の人々。東京に憧れようと憧れまいと、どこでも住めば都。隣の芝はいつも青い。そこに何らかの付加価値をついたとしても、それは間違いなく幻にしかすぎない。東京は東京にしか過ぎず、都会は都會でしかない。よきによき伸びる最近の都心を眺めていると、そんな思いに捕われる。ふらり散歩にそろそろ終止符を打ちたいと願うのも東京の変貌さに追いつく自信がなくなつたからでもある。

江戸四大宿場街のひとつ、板橋に出向く。観光コースを歩



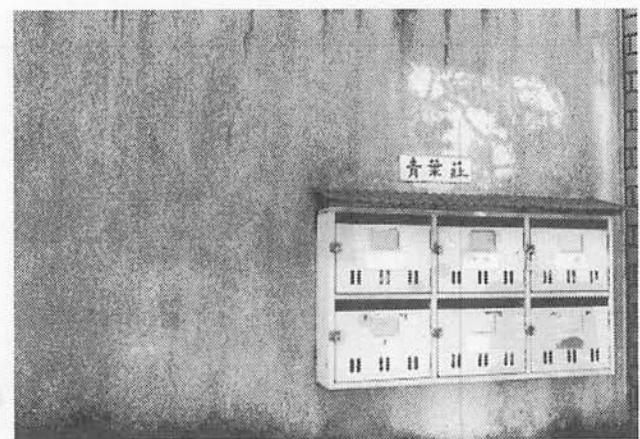
くのも嫌だし、木曾へと旅する訳でもないので、宿場街とはあまり縁がなさそうな東武東上線の大山駅で降りる。

今年の秋はヒートアーランドの猛暑を引きずつてゐるからか、やけに蒸し暑い。秋らしさというのは都会ではどこかへ行つてしまつたようだ。空は秋でも地上は亞熱帯。

ハッピーロードと云う、川越街道へと向う商店街を歩く。幸せになりたければ歩け？一理はあるがそうとばかりも言えぬのがこの世の不思議。

この商店街、とにかく長い。乾物屋から八百屋まで生活必需品は何でも揃つていて。そして都内有数の住宅地だけあつて鎧びれず活気がある。けれど、欲望に対する満足感が幸せと云うのならば、この抽象的な言葉に夢も希望もない。不幸にしかれない人もいる。

川越街道を越えずに仲町から中板橋に抜ける。変哲がどこにもありそうもない落ち着いた街。北関東へと広がる平野に昭和から平成の一戸建て住宅が並ぶ。



中板橋の駅前で秋戸空さんに偶然出会う。

「しばらく前までは古い建物はここら辺にも沢山あつたのですが……」

と、申し訳なさそうに秋戸さん。

それでも、住宅地らしく静かに整備されているこの街に秋戸さんの姿はマッチしているように思えた。

ハッピーロードと対照的な、なかいした商店街を石神井川まで抜け、環七通りに近い氷川神社の杜に入る。金木犀の香りが漂い、それでも秋なのだと嗅覚で実



感。境内には初参りの子供を抱えた家族が一組。参道の脇には傾いた古い家が一件。

坂を下り、日曜寺の脇を通つて再び石神井川へ。東へ行けば板橋宿だが、都営住宅の前を通つて引き返す事へ。路地も少しは増え、なにやら因縁ありそうな土地と思いきや、大山公園の隣には都養育院が。

養育院たら、都市貧民史を語る上でも欠かせぬ施設。ここに移つて来たのは関東大震災以降との事だが、宿場街の裏手のこの場所、貧しき者が辛苦を共にした土地であつた事を物語る。周辺に東京都の関連施設が多いのもそのせいか。

渋沢栄一の社会事業的「偉業」は、辣腕知事のもと歴史を省みられる事なく民間ビジネスの道へ。「救貧から防貧へ」と云うかつてのスローガンが機能していたのであれば、今頃路上に暮らす人など現われようがなかつたものに。

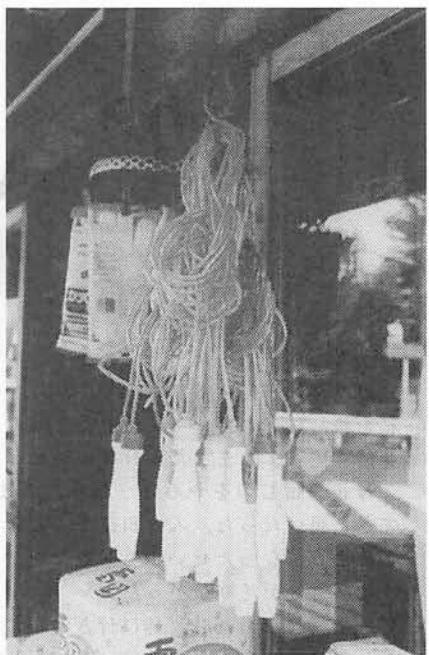
都市ならではの苦労は何も学ばれてはいない。こと、この東京と云う都市では。

大山駅に戻り、川越街道に沿つた路地を行つたり来たりと池袋方面へと歩く。

整然としたハッピーロードはそこなく、庶民の手ごわさを物語る雑然とした街が池袋駅まで続く。そしてその向こうの都心にでは今も超高層ビルが建ち続けている。

平和通りの「三番」で食事。

まだ、時間があるので歩き続けようとは思つたものの、山手線のガードの上で足が止つた。道がないわけではないのだが、立ちはだかるビルディングは歩く気力を失わせる。幸せはこの先にはない。何故かそう断言できてしまつたのである。



# あかい花

はり師いが丸

今思えば事情があったのだろう。隣町にある母親の実家にはよく泊まりに行かされた。母方の祖母は手先の器用な人で、よくパンやケーキを焼いてくれた。祖父母は初孫だった姉と私を旅行に連れてってくれたりもしたが、母親が家を出ていったのを機に、私は彼らとの音信も絶ってしまった。9歳の時だったと思う。

母親を憎むのをやめようとしたのはそれから10年後のことだった。雪の日に、突如降ってきた想いだった。人と出逢うことの喜びと、それが壊れることの悲しみを、少しは経験できるようになったせいかもしれない。ただ「もう憎んでない」と伝えたかったが、母親と会うには勇気が足りなかった。

二十歳になった時、姉に付き添ってもらい、母親の実家に向かった。やはり雪が降っていた。祖父母の家までの道程、高かったはずのブロック塀の、あまりもの低さにうろたえた時、この訪問が失敗に終わることを予感した。

突然の来訪を、祖父母はいつもの客が来たかのように迎えてくれた。記憶にある通りの、けれども何もかもが小さく見える家の中で、アルバムや8ミリフィルムまで持ち出して、彼らは途切れることなく思い出話を続けた。相づちを打つのが精一杯だった。本来であれば「こんなに大きくなったんだよ」と伝え、空白を埋めるべき機会だっただろう。子どもから大人に向かう10年、様々な経験を刻みながら、きっと私は大きく成長していた。けれども、その歳月に彼らを必要としなかったこと。それまでの私が、いくつかのことを乗り越えるための原動力の核に、母親への憎しみをすべて生きてきた事が、私を硬直させた。逆の想いに押し潰されていた。祖父母の愛情は、私の憎しみよりも、はるかに重かったのだ。

祖父母は後で言っていたらしい。「いつかわかってくれると思っていた」と。けれども、彼らの想いを受け止めることなど、できるはずなかったのだ。私はただ、人を憎んで生きるつらさから解放されたいがために、彼らを訪れたのだから。

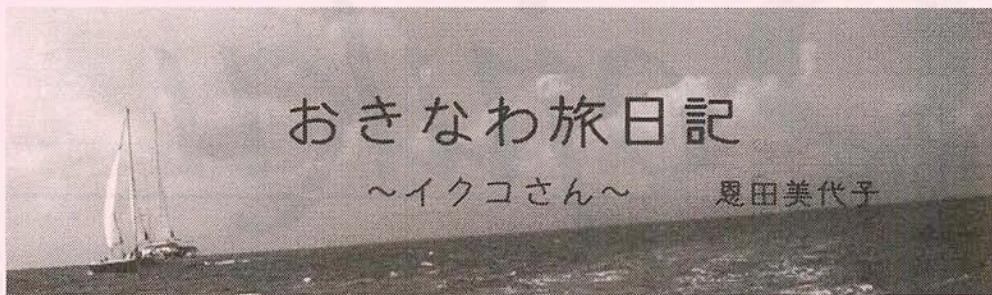
それから5年の間、私は再び彼らから遠ざかった。祖父がもう長くないだろうということも聞いていた。「どうか会いにきてください」と筆で書かれた祖父からの手紙も届いていたが、どうしても、再び彼らを訪ねることはできなかった。

最後に私を母親と会わせてくれたのは、祖父の死だった。葬儀の日、15年ぶりに現れた私に、まわりの人たちは慎重にやさしさを表現した。親族席の末席に座りながら、もう届かない祖父に、私はひたすら謝り続けていた。祖母はふたまわりも小さくなつて見えた。かろうじて挨拶をした私のことも、わかってはないようだった。

うら盆の最中、今年は祖母も祖父の元へ旅立った。80歳を越していたというが、紅を差して眠る顔は、あまりにも美しかった。祖母と付き合いがあったという婦人が「小唄や踊りが上手なひとで」と晩年の祖母を偲んでいた。

私には故人を懐かしむことができなかつた。残るのは、彼らとの「関係」だからだ。

今の私に矜持があるとすれば、人を憎むことを捨てたことだけだ。



与那国島では結局、イクコさんの家に5泊した。その間、1日5食昼寝付き。あばあちゃん、イクコさんの旦那さん、イクコさん、3人の子供達に囲まれて日常を共にし気付いたのは、イクコさんは良く働くこと。

朝、飼っている牛に餌を与え、家族の朝食の準備、役場で昼まで働き、牛の様子を見に行った後家族の昼食作り、又役場へ戻り、終業後帰宅し夕食作り。そして家の掃除、洗濯。時間ができると、休みで退屈している子供達や旅行者である私を誘いドライブへ連れ出す。イクコさんが自分のために何かを楽しんでいる姿は、ついぞ見なかつた。

ある時、常に動いているイクコさんが傍観者である私に呟いた。

「つっかかるよお。私が何かすると、その日の内に島中の人人に知れ渡る。島社会は狭いから、ストレス溜まるよお。いくら働いても、たいしたお金にならないし。牛売って、島を出て、別の所で暮らしたいけどここで暮してきたおばあちゃんがいる内は、この島は出られないし。」

青い空、おいしい空気、眩しい緑に包まれ一見美しい島ではあるけれど、これだけ毎日働いている人が楽になれないこの島は、見ていて辛い。

次号22号は来年1月1日発行予定です。  
原稿締めきりは12月4日必着にて

### 露宿ベン俱乐部短信

お願ひします。

#### 編集後記

「いそいそと 暮れる街角 てくてくと

八百屋の明かり 梨、柿、ぶどう」

すいか並ぶまぶしい夏を越え、はたまた秋の到来です。『小さい秋みつけた。なんてよく言ったもので、そこここに秋の足音。落ち葉かさこそ、日暮れば早く、ひんやり吹く風の中に『小さな自分、を見つけ、はたまたてくてくと……。露宿編集で哲学の秋でございます。次お会いする時は冬眠中一。どうか起き起こしてくださいませ！（お）

10月にもなって夏日とは今年の秋は落ち着きがなく、決して健康に良いとは言えない秋です。投稿者の皆さん、読者の皆さん、どうぞ無理せず、お身体大事に。

露宿に投稿する人は、ここと固定していますが、新しい仲間の投稿も大歓迎です。資格、審査一切なし。露宿は仲間の自由な表現の場です。新作、珍作、心よりお待ちしております。

次号は早くも来年の新春号。時の流れは早いものです。今年一年思い返し、しぶとく渋く生き抜いていきたいと思います。

# Rojuku

購読費・スポンサー費  
送り先  
郵便振替口座  
00160-6-190947  
「ろじゅく編集室」

## 露宿バックナンバー 有ります。

露宿バックナンバーは創刊号から（2号、4号、18号は売切です）在庫があります。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。

「ろじ  
ゅく

## 定期購読大募集

### [露宿定期購読の御案内]

毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読 8回分 5000円（郵送費込み）

定期購読 4回分 2500円（郵送費込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。

一冊は送料込みで660円となります。

### 申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円（いずれも送料込み）となります。

露宿 R O J U K U はココで買えます。

◆摸索舎 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 ◆TACO ché 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 ◆スペースかぼす 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 ◆新宿中央公園ポケットパーク（毎日曜午後6時から8時まで）TEL090-3818-3450 ◆石手寺 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870 ◆ぐりん・びいす 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」第21号 2002年11月1日発行（隔月刊）

主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13  
TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450（笠井）

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

販売協力・新宿連絡会、露宿ペン俱楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー